

災害廃棄物の広域処理への協力について

災害廃棄物の現状

○膨大な災害廃棄物が発生

岩手県:約 395万トン(約9年分)
宮城県:約1,200万トン(約15年分)

○処理の進捗状況(7月末現在)

岩手県:19%、宮城県:25%

平成26年3月を目標に、被災地で懸命に取り組んでいるが、なお処理能力が不足

全国的な
広域処理が必要

(岩手県・宮城県が対象)

富山県としての基本的な考え方

「**安全性の確保**」と「**地域住民の理解**」を大前提として、

前向きに検討中の市町村(富山広域、高岡市、新川広域)

と連携して、「岩手県」の災害廃棄物の広域処理を検討

検討の状況

4月9日に知事が岩手県を訪問

○岩手県山田町での放射線量測定

- ・仮置場敷地境界:0.07 μ Sv/h
- ・災害廃棄物:0.04 μ Sv/h

放射線量は**富山県内(0.04~0.09 μ Sv/h)と同程度以下**

※立山町、高岡市及び新川広域圏の訪問



- ・仮置場敷地境界:0.07 μ Sv/h
- ・災害廃棄物:0.03 μ Sv/h

H24.4.19 立山町訪問



- ・仮置場敷地境界:0.03~0.06 μ Sv/h
- ・災害廃棄物:0.05 μ Sv/h

H24.6.4 高岡市訪問



- ・仮置場敷地境界:0.07 μ Sv/h
- ・災害廃棄物:0.04 μ Sv/h

H24.7.25 新川広域圏訪問



H24.4.9 知事訪問

○岩手県との覚書交換(=基本的枠組み)

受入を検討する災害廃棄物の要件(安全基準)

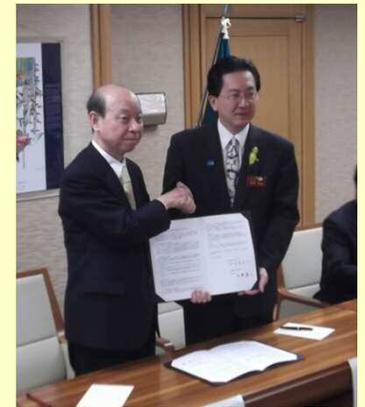
放射性廃棄物として扱わないレベル(原子炉等規制法)

クリアランスレベル(100Bq/kg)を超えないこと

放射能濃度測定(富山県測定)

5月15日:岩手県山田町で試料採取
測定結果:**不検出**(40Bq/kg未満)

⇒両県は、放射能濃度及び放射線量の確認等の必要な措置を講ずる



今後の方向

地域住民への説明

試験焼却等による安全性の確認と住民への説明

受入・処理方法の検討・決定

岩手県との委託契約等の締結